

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

予測困難な時代に一人ひとりが未来の創り手となるために

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

1 基本方針

卒業時に生徒が身に付けていること

- ・自ら考え、行動する力
- ・人を思いやる気持ち
- ・多様な人と協働できる力
- ・基礎、基本を土台とした、思考力、判断力、表現力
- ・挨拶の習慣
- ・読書習慣

2 確かな学力の育成

(1) カリキュラム委員会においてカリキュラム・マネジメントを確立し、新学習指導要領などで求められる力を育てる。

ア 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを実施する。また新課程に向け新カリキュラムを検討する。

イ 「何が身についたか」の評価方法、観点別の評価方法を検討する。

(2) 授業改善に取り組む。主体的・対話的で深い学びを通し、思考力・判断力・表現力を高めるようにする。

ア わかりやすい授業を行う。

イ 生徒が考える授業を行う。(思考力、判断力)

ウ 生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする。(表現力)

エ 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に身につけさせる。

オ 話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。

そのために

カ 公開授業、研究授業、授業見学、研修、授業アンケートなどを活用した授業改善に組織的に取り組む。

キ 生徒一人ひとりの能力や特性(ニーズ)に応じた個別学習や協同学習を展開し、より意欲的で深い学びを実現するため、授業力アップチームが中心となり、普通教室や各種特別教室におけるICT機器を活用した授業の研究を進める。

ク 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。

※授業アンケートにおける「興味関心が持てた」「知識技能が身についた」の第一評価をR5年度に50%以上(R2:46,47/R1:38,39/H30:35,38)にする。

※学校教育自己診断(生徒向け)の「教え方に工夫をしている先生が多い」の第一評価を17%UPさせR5年度に50%(R2:33/R1:23/H30:21)にする。

備考 評価の基準

第一評価	よくあてはまる
第二評価	ややあてはまる
第三評価	あまりあてはまらない
第四評価	全くあてはまらない

3 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

(1) 効力感、達成感の育成

ア 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現をしたり、認められたりする場を広げる。

イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともに部活動参加率70%以上がR5年度に維持されている。

(H30:68 / R1:66 / R2:74)。

ウ 小学校、中学校、大学との連携を深める。また地域ボランティアなどの貢献活動を継続する。

エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。

(2) キャリア教育の推進、キャリアアンカーの形成

ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。

イ 日々の学習、フィールドでの発表や研修などを通して、自分の進路や生き方を考えられるようにする。

(3) 進路実現の支援: 4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率をR5年度に90%以上にする。(H30:80 / R1:69 / R2:84)

就職希望者の就職率がR5年度に100%に維持されている。(H30:100 / R1:100 / R2:100)

(4) 資格取得の推進

※学校教育自己診断(生徒向け)で「授業で発表する機会がある」の第一評価を、R5年度までに50%にする。(H30:38 / R1:42 / R2:43)

「ガイダンスは分かりやすい」の否定的評価(第三、四評価の合計)が、R5年度に10%以下に維持されている。

(H30:16 / R1:18 / R2:9)

「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価が、R5年度に50%以上に維持されている。(H30:53 / R1:59 / R2:71)

4 安全で安心な魅力ある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成する

ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

イ 生徒が自分で判断して自らの行動を律することができるようにする。

(2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明示していく。

(3) 保護者連携・地域連携を一層推進していく。

(4) 働き方改革

※学校教育自己診断(保護者・生徒向け)での「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価(第三、四評価の合計)をR5年度までに、生徒向け10%以下(H30:27 / R1:29 / R2:29)、保護者向け10%以下(H30:21 / R1:21 / R2:19)にする。

5 グローバル人材の育成

- (1) 日本語指導の必要な帰国生徒・外国人生徒の指導
- ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
- イ 日本人生徒との交流の促進
- (2) 国際交流の推進
- ア 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、韓国語圏）
- イ 外国の学校との相互交流の実施

※コロナ感染症拡大がおさまれば、語学研修の回数を年1回行い、参加者10人程度(H30:12 / R1:19 / R2:0)を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分及びこの5年間の比較]	学校運営協議会からの意見																								
※下の表の数字は生徒回答の第一評価の%	第1回 6月23日																								
生徒たちは本校に来る意義を感じている	○R3年度学校経営計画について																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校に行くことに意義を感じている</td> <td>43</td> <td>49</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>門真なみはや高校に入学してよかったと感じている</td> <td>52</td> <td>65</td> <td>54</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>この学校は自分にあったフィールドや科目がある</td> <td>56</td> <td>61</td> <td>55</td> <td>53</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	学校に行くことに意義を感じている	43	49	40	39	31	門真なみはや高校に入学してよかったと感じている	52	65	54	48	48	この学校は自分にあったフィールドや科目がある	56	61	55	53	50	・観点別評価に向けて自校のガイドラインは作成しているか？
	R3	R2	R1	H30	H29																				
学校に行くことに意義を感じている	43	49	40	39	31																				
門真なみはや高校に入学してよかったと感じている	52	65	54	48	48																				
この学校は自分にあったフィールドや科目がある	56	61	55	53	50																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒が静かに授業を受ける環境がある</td> <td>52</td> <td>43</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>教室はきれいで、授業を受ける態勢ができています</td> <td>43</td> <td>38</td> <td>31</td> <td>33</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	生徒が静かに授業を受ける環境がある	52	43	29	28	28	教室はきれいで、授業を受ける態勢ができています	43	38	31	33	29	・「こころの再生」における生徒と高齢の方々との交流が大変良いと感じた。						
	R3	R2	R1	H30	H29																				
生徒が静かに授業を受ける環境がある	52	43	29	28	28																				
教室はきれいで、授業を受ける態勢ができています	43	38	31	33	29																				
第二評価を合わせると88%の生徒が、先生は工夫していると肯定的にとらえ、90%の生徒が発表の機会があると感じているが、第一評価をさらに高めたい	・コロナ禍においても生徒が充実した時間がとれるよう先生も頑張ってください。																								
補習、講習に関しては数年前の方が数値がよい	・昨年度の中学生たちはコロナ禍で様々な行事をあきらめてきた。その生徒たちが入学し、このような経験をさせてもらえてうれしい。学校生活がよいものだと思わせてやってほしい。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教え方に工夫をしている先生が多い</td> <td>29</td> <td>33</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある</td> <td>40</td> <td>43</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>授業の補習や進学講習は十分用意されている</td> <td>37</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	教え方に工夫をしている先生が多い	29	33	23	21	24	授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある	40	43	42	38	31	授業の補習や進学講習は十分用意されている	37	39	39	39	45	・地域で出会う生徒たちはみな楽しそうないい表情をしている。
	R3	R2	R1	H30	H29																				
教え方に工夫をしている先生が多い	29	33	23	21	24																				
授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある	40	43	42	38	31																				
授業の補習や進学講習は十分用意されている	37	39	39	39	45																				
指導に対する生徒の納得感が大きく低下した。生徒の思いを受け入れたうえで、生徒が納得感を得られる指導を進めていく必要がある	・進学率、キャリア教育の取り組みなどから、総合学科の中でもポテンシャルが高い学校である。ぜひ今後とも頑張ってもらいたい。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる</td> <td>28</td> <td>42</td> <td>37</td> <td>32</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>学校生活について先生の指導は納得できる</td> <td>25</td> <td>37</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>先生は生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している</td> <td>39</td> <td>47</td> <td>42</td> <td>39</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる	28	42	37	32	33	学校生活について先生の指導は納得できる	25	37	34	28	25	先生は生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している	39	47	42	39	34	第2回 10月21日
	R3	R2	R1	H30	H29																				
学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる	28	42	37	32	33																				
学校生活について先生の指導は納得できる	25	37	34	28	25																				
先生は生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している	39	47	42	39	34																				
行事の縮小の影響があったため第一評価は低下した	○授業見学の感想																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義だ</td> <td>57</td> <td>72</td> <td>61</td> <td>61</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義だ	57	72	61	61	53	・実技科目は充実していた。生徒が「達成感」を持てるフィールド授業の実技科目での経験を、是非他の科目にも生かしていただきたい。												
	R3	R2	R1	H30	H29																				
文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義だ	57	72	61	61	53																				
コロナ禍でガイダンスの形を変更した影響があった可能性があるが、将来の進路、生き方について十分考える機会が与えられていると生徒は感じている	・毎回思うが、生徒が熱心に授業に取り組んでいる。英語はSDGsという今日的なテーマ。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>将来の進路や生き方について考える機会がある</td> <td>62</td> <td>71</td> <td>59</td> <td>53</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	将来の進路や生き方について考える機会がある	62	71	59	53	49	・昔（委員ご自身が）受けた授業からかなり変わっており、進化している。												
	R3	R2	R1	H30	H29																				
将来の進路や生き方について考える機会がある	62	71	59	53	49																				
命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会があるといえる	・（本日の実践は）同じく教科担任制である中学校でも応用できると思った。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>41</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある	41	41	44	41	36	・自分が興味を持ったものを学べるフィールドの授業がよい。												
	R3	R2	R1	H30	H29																				
命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある	41	41	44	41	36																				
この学校では、十分人権に配慮がなされている	第3回 1月27日																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>この学校では、十分人権に配慮がなされている</td> <td>56</td> <td>59</td> <td>53</td> <td>45</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	この学校では、十分人権に配慮がなされている	56	59	53	45	44	○R3年学校経営計画及び評価について												
	R3	R2	R1	H30	H29																				
この学校では、十分人権に配慮がなされている	56	59	53	45	44																				
生徒が教員に対してより相談しやすい環境作りをさらにすすめていく必要がある	・評価指標の設定について																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何かあれば、相談できる先生がいる</td> <td>36</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>36</td> <td>30</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない</td> <td>67</td> <td>69</td> <td>58</td> <td>53</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	何かあれば、相談できる先生がいる	36	33	33	34	32	この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている	32	32	36	30	33	この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない	67	69	58	53	61	学校教育自己診断を見ると、正規分布で見ると、第一評価が26～27%をこえていれば、良い方向に進んでいると考えられ、おおむね良い数値といえる。40～50%を超えているところはかなり高い。学校教育として取り組みはいい形といえる。
	R3	R2	R1	H30	H29																				
何かあれば、相談できる先生がいる	36	33	33	34	32																				
この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている	32	32	36	30	33																				
この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない	67	69	58	53	61																				
制度説明が適切になされている	学校教育自己診断に回答する側からすれば、「よくあてはまる」と答えることを遠慮してしまう。心情的に「ややあてはまる」だと答えやすい。第一評価にこだわらず、肯定的評価を指標にしてもいいのではないかと。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィールドや選択科目のガイダンス指導はわかりやすい</td> <td>42</td> <td>52</td> <td>39</td> <td>41</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>奨学金制度について、紹介や説明がなされえている</td> <td>45</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>52</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R2	R1	H30	H29	フィールドや選択科目のガイダンス指導はわかりやすい	42	52	39	41	30	奨学金制度について、紹介や説明がなされえている	45	48	48	52	49	→審議後、承認された。						
	R3	R2	R1	H30	H29																				
フィールドや選択科目のガイダンス指導はわかりやすい	42	52	39	41	30																				
奨学金制度について、紹介や説明がなされえている	45	48	48	52	49																				
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	○学校教育自己診断について																								
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	・生徒の規範意識については、授業の工夫などとは違い否定的な数値が多い。生徒の納得度を高めるチャレンジをお願いしたい。																								
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	・規範意識を高めるために、ルールについて考える機会を設け当事者意識を高めるために議論するのはいいことだと思う。																								
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	○1人1台端末の活用について																								
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	・脳科学的に言うと、PCによる学習は教材の提示や画面操作だけに終わってしまいがちで、思考と定着という面で課題がある。内容を工夫し、思考させることで定着を図ることが必要。																								
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	○観点別学習評価																								
令和4年度学校経営計画について。校長より説明の後、審議され承認された。	・小・中学校で観点別評価を経験してきた生徒たちが入ってくる。いろんな工夫を積み上げていくことを期待している。																								

府立門真なみはや高等学校

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	自己評価
2 確かな学力の育成	(1) 新カリキュラム等の検討	ア カリキュラム委員会で次期指導要領の内容、新カリキュラム、観点別評価の検討をする。	ア・カリキュラム委員会 15 回〔15回〕 ・職員研修 1 回以上〔2回〕 ・職員会議冒頭ミニ研修5回以上〔6回〕	ア カリキュラム委員会の活動 ・委員会の実施 20 回 ・1人1台端末活用委員会と連動し、研修を3回実施。 ・職員会議冒頭のミニ研修を5回実施。(○)
	(2) 各教科を中心とした授業改善	ア・わかりやすい授業を行う。 ・生徒が考える授業を行う。 ・生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする授業を行う。 ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。	ア 授業アンケート「知識や技能が身に付いた」の第一評価を50%以上〔47%〕にする	ア 授業アンケート「知識や技能が身に付いた」の第一評価 48% 第二評価と合わせると88%であったが、第一評価に限ると目標値には届かなかった。生徒がより強く実感できるような工夫を進めていく (△)
3 生徒のやる気スイッチをオンにする	(3) 主体的、対話的で深い学びをめざす	ア・ICTなどの活用 ・生徒自身の発表の機会を設ける等授業形態の工夫をする イ 教員相互の授業見学と研修 ・教育実習期間に合わせた教職経験年数が少ない教員による授業見学及び研修の実施 ウ 自主的な学習の推進 ① 授業以外の学習時間を前年比10%以上の増加を図る。 そのために、2年生の早期に受験勉強のスタートを切らせる。 ② 読書習慣を身につける。 一年生の朝の読書活動は昨年度の反省を踏まえ、よりよい形態を考える。	ア 生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の第一評価を39%〔33%〕に、「授業で発表する機会がある」の第一評価を46%〔43%〕にする イ 教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」の第一評価を31%〔21%〕にする	ア 生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の第一評価 29% 「授業で発表する機会がある」の第一評価 40% 第二評価と合わせるとそれぞれ86%、90%であったが、第一評価に限ると目標値には届かなかった。生徒がより強く実感できるような工夫を進めていく (△) イ 教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」の第一評価 32% (○)
	(1) 効力感、達成感の育成	ア 部活動参加率を上げる。部活動の説明会などを充実させ、全学年の生徒の部活動の参加率を高める。 イ 地域連携 地域の小中学校への出前授業や、他の機関との連携、オンラインを含めた交流を通して地域に根差した学校とする。	ア 部活動参加率70%以上を維持する〔74%〕 イ コロナ感染状況を見極めつつ、3つ以上の交流を実施する。	ア 部活動参加率74% (○) コロナ禍でありながら活動紹介などを工夫した成果である。 イ ①福祉フィールドでは、ゆめ伴プロジェクト in 門真に関わり、昨年度に引き続きオンラインでの交流を行ない、支援学校との交流も行った。 ②市単位の学校説明会が中止される中、学校単位での出張説明会に多数、招聘され参加した。 ③門真市内小学校とのオンライン交流を行った。(○)
	(2) キャリア教育の推進	ア 「産業社会と人間」から始まる3年間のキャリアプランの作成 ・2,3年生のキャリア教育の充実 イ 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。	ア 自己診断「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価50%以上を維持する〔71%〕 イ 自己診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価(第三、四評価の合計)10%以下を維持する〔9%〕	ア 自己診断「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価62% (○) イ 自己診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価10% (○)
	(3) 進路実現の支援	ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。	ア 3学年当初の4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率を90%以上にする〔84%〕 就職内定率100%を維持する〔100%〕	ア 3学年当初の4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率 97%(最終) (◎) 就職内定率 100% (○)
	(4) 資格取得の推進	ア 生徒が資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。	ア 受験者数の増加 ・漢字検定受験者数50名以上〔48名〕 ・英語検定準2級以上(CEFR A2以上)の生徒数40名以上〔33名〕 ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率(パソコン検定など80%以上維持)〔100%〕	ア ・漢字検定受験者数 64名 (◎) ・英語検定準2級以上(CEFR A2以上)の生徒数217名 (◎) ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率は出席停止等やむを得ない事情のものを除き、100% (○)

府立門真なみはや高等学校

<p>4 安全で安心な魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成</p> <p>(2) 課題のある（困り感のある）生徒の支援</p> <p>(3) 保護者連携・地域連携の一層の推進</p> <p>(4) 働き方改革</p>	<p>ア 規範意識を持たせる。生徒が指導の目的を理解した上での指導の実践</p> <p>イ 情報リテラシーの育成。特に SNS の利用について、研修や授業を通してリテラシーを高める。</p> <p>ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会を継続実施</p> <p>イ 生徒相談室を充実させるなど相談体制の充実を図る ・「保健だより」等を活用した窓口の周知、教職員からの声掛けを継続する。</p> <p>ア 保護者連携の推進のため、メールの一齐配信など確実な連絡を行う。</p> <p>ア 会議でのペーパーレス化を進める。</p>	<p>ア・自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価を 45% [42%] にする ・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価を 42% [37%] にする</p> <p>イ 生徒向け自己診断に新たな項目「情報機器や SNS を使用する際にルールを守っている」を設け、第一評価を 40%にする。</p> <p>ア 支援・教育相談委員会を月 1 回程度開催 [5 回]</p> <p>イ 自己診断（保護者・生徒向け）「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価（第三、四評価の合計）を、生徒向け 22%にする [29%] 保護者向け 15%にする [19%]</p> <p>ア 保護者向け自己診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の第一評価を 33%にする [24%]</p> <p>ア 1 回以上の実施</p>	<p>ア・自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価は 28% (△) ・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価は 25% (△) 今後さらに生徒の思いを受け止めながら指導を進めていく。</p> <p>イ 自己診断「情報機器や SNS を使用する際にルールを守っている」 第一評価は 70% (◎)</p> <p>ア 月 1 回というペースでの開催は難しかったが、個別ケースについての委員会を 5 回、拡大メンバーによる委員会を 5 回開催した。 (○)</p> <p>イ 自己診断（保護者・生徒向け）「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価は、生徒向け 29% 保護者向け 22% (△) 相談窓口相談しづらい生徒をどうサポートしていくかが課題である。</p> <p>ア 保護者向け自己診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の第一評価 19%であった。(△) プリント配付に加えメール連絡を増やすことを望む声があった。重要な連絡では対応していきたい。</p> <p>ア ICT 機器を活用し、数回実施した。(○)</p>
<p>5 グローバル人材の育成</p>	<p>(1) 日本語指導の必要な帰国生徒外国人生徒の指導</p> <p>(2) 国際交流の推進</p>	<p>ア 合格発表後、早期からの高校生活支援を継続するとともに日本人生徒との交流を促進する</p> <p>ア 生徒の短期語学研修の充実</p> <p>イ 外国の学校との相互交流の実施</p>	<p>ア 文化発表会等による自国文化の紹介を年 2 回実施する。</p> <p>ア 短期語学研修参加者 10 名程度 [0 人 コロナ禍のため]</p> <p>イ 1 校以上の交流を受け入れる [0 校 コロナ禍のため] オンラインによる交流など可能な形での実施を模索する。</p>	<p>ア 外国にルーツを持つ生徒たちの活動では、コロナのため文化祭での部活発表や新入生歓迎会が縮小され、発表の場が減ったが校内では渡日生紹介での発表、校外での他校との交流会参加を合わせると 2 回以上の実施となる。 (○)</p> <p>ア 短期語学研修はコロナのため実施せず。新しく「留学生とめぐる京都」を立案、実施した (一)</p> <p>イ 準備を進め実現寸前までこぎつけたものの、交流受け入れは実現できず。オンラインによる交流は、ハンブルや中国語フィールドで実施 (一)</p>